



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年11月05日 第943号「週刊五十嵐レポート」

働き方改革から時間管理を学ぶ

「働き方改革」という文字を見ない日がない。職場環境の改善と生産性向上による魅力ある職場をつくり、人材を確保し、業績向上を図る。最大の見直しは「長時間労働」の解消。

「働き方改革」の模範企業は味の素(「味の素 残業ゼロ改革」より)。年間総実労働時間2000時間前後から1800時間強へ4年で減らした。まずは社員の労働実態の把握。日常業務を「得意先対応」「市場視察」「移動」「資料作成」他、作業分類(91業務)を分けた。調査して見えてきたものがあつた。「時間泥棒」のワースト1と2は、「移動」と「会議」だった。対策として、1. 移動の工夫、2. 書類処理の簡略化、3. ネット会議システム、4. サテライトオフィス。1人当たり年間20~30時間の会議時間を削減。

トヨタがディーラーの販売カイゼンをしたときの話(「トヨタ物語」より)。標準作業の策定が必要。作りながらムダな作業を見つけ、手直しすると時間は劇的に減少する。営業マンの仕事を見ると、お客と接する時間が少ない。原因は事務の仕事や車の査定に時間を使っている。接客以外の仕事のムダを切り詰め、余裕のある接客をするようにした。すると成約率が上がった。経費の精算、机上の整理整頓、事務連絡などの本来の仕事以外を整理整頓、IT化して、クリエイティブな仕事に充てる時間を長くする。ムダを切り詰めて定時に仕事を終える。

ドラッカーは成果を上げることとして「時間管理」を挙げている。1. 何に自分の時間が取られているかを知る。時間を体系的に管理する。2. やる必要のない仕事や成果に結びつかない仕事は切り捨てる。3. 人に任せていい仕事は部下や外注に任せる。4. 時間は大きなかたまりで使えるように調節する。

何事も、最初は現状分析。何に時間を取られているのか。従業員研修を行った時、調査してもらったと、やはり、「移動」と「社内」に多くを取られていた。どこも同じだと解った。ここから大きな改善がはじまる。文明の利器(IT)を活用して時間のムダを省くことが可能になり、生産性を高めることができる。

ちょっと
おぼえておきたいこと

先日、従業員数1万人以上の製造業(上場企業)の販売店向けに講演をさせていただきました。

テーマは、「会社は潰れるようにできている」。

その企業の第2四半期の業績が発表された。売上は前年同期比11%ダウン。営業利益はダウンしたものの黒字を確保。第3四半期の予想は売上で20%ダウン、第四四半期は30%ダウンもありうる。

市況は低迷している。リーマンショック以来10年ぶり。主な販路は自動車産業と半導体。やはり米中貿易戦争から端を発し、中国製造業の減速、日系企業の減速となっていく。徐々に表面化してきた。

財務体質の悪い企業から潰れていくことになる。

リーマンショックのような瞬間的に勢いよく落ち込むのではなく、今回はじわじわと下っていく。

回り回って、消費にもたどり着くだろう。

季節は春夏秋冬と流れる。これから冬が来る。冬の暮らし方で春が決まる。経営も同じ。



一口メモ
知識

「何もない」ことが智慧

智慧とは、特別に「何かがある」ことではありません。

じつは、「何もない」ことなのです。

心の中に、ある価値判断や尺度をもっていると、それに当てはまるものしか見えません。何か知識にしがみついていると、それで頭がいっぱいで、他のものが入らなくなってしまいます。

頭の中に何もない場合、そのときそのとき、何でも入ってしまい、理解が早いのです。

さらに、得たものに執着しないで持ち運ばないのが、智慧のある人。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com



新経営の志手帳